

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

# 7



## ■シリーズ「つながる①」

- ◎地域と学校 地域連携教育アドバイザー  
周南市担当 布施 安浩  
和田小・中学校学校運営協議会 会長 平野 忠彦  
周南市立熊毛中学校  
地域統括コーディネーター 末廣 祥子
- ◎高等学校と地域行政  
山口県立岩国工業高等学校 都市工学科 教諭 穂森 克彦  
山口県立岩国工業高等学校 製作と卒業生の声
- ◎自然・文化と人  
NPO法人「人と木」 理事長 岩本 美枝  
山頭火ふるさと館 館長 西田 稔  
大津支部 梅月 博文

■教職時代を偲ぶ

## 一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768  
 URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)  
 明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品

『未来に残したいふるさとの風景』

萩市立福栄小中学校 小学部6年(受賞時) 岩本 珠佳

### あなたの アクションは...

山口県教育会がすすめる  
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち



### コミュニティ・スクールを核とした 地域とともにある学校づくり



地域連携教育アドバイザー

周南市担当 布施 安浩

周南市では、やまぐち聖地域連携教育の理念や手法を生かしながら、コミュニティ・スクール（以下CS）を核とした地域とともにある学校づくりを進めています。そこで、地域と学校の組織連携がいつそう充実するよう、市内全小中学校区を訪問し、運営をサポートするのが地域連携教育アドバイザーの役割です。ここでは、周南市の学校と地域のつながりの一端を紹介します。

#### 学校運営協議会に子どもを思う温かい眼差しがある

年度初めの学校運営協議会では、学校課題を踏まえ地域と学校の連携によって何ができるかを部会別に話し合う姿や、教職員全員が学校運営協議会に参加し、学校と地域が行う連携活動の意義を共有する姿を見ます。年間を通じて行われる協議会をとおして、地域の方々の子どもたちに対する温かい思いと、地域の方々のやりとりを通して見える教職員の感謝の気持ちから、相互の信頼が深まる姿を目にすることができまます。協議の楽しさ、協議の豊かさ、信頼の温かさが、CSの継続を支えています。

#### CSを生かした地域のネットワークがある

多様な学校の教育課題を解決するためには、地域の方々の学校支援が、欠かせない視点となります。算数の九九を定着させるための取組に、地域や保護者の方々が認定員として授業に参加し、学習の定着に関わっています。小学校一年生からの英語による絵本の読み聞かせなどによって、小学校三年生から始まる英語活動への円



滑な導入への配慮が感じられます。また、中学校家庭科の学習で行われる、絵本づくりや手遊び等による乳幼児やその保護者とのふれあい活動は、地域の子育て支援グループの方や食生活改善推進員、母子保健推進員など多くの方々の協力によって運営されています。

一方、小中学生のボランティア活動は、年間のべ一万四千人以上となり、地域の清掃活動、地域行事の運営の手伝いなどの地域貢献を通して地域の方々のつながりを深めています。「ボランティア活動も大切な教育の場ととらえ、地域全体で子どもたちを見守り、支え、育てる機運を高めたい」という地域の方々の言葉から、子どもは学校と地域で育てるとした一貫した考えを双方が共有することの重要性を感じます。



#### 小中学校間に目標を共有するつながりがある

小学生にとってあこがれであり将来の目標とする中学生像を、中学生自身が意識することで、互いにとって有効な教育効果をもたらしています。

中学生が地元歴史・伝統・文化・産業・自然などを調査し、地域のひと・こと・ものにふれる地域学習を行います。その結果を小学校で発表する活動では、先輩らしく振る舞おうとする中学生と、その一挙手一投足をあこがれと興味をもって見守る小学生の姿が印象的です。

このような活動は、小中学校間で共通の子ども像を目指した日頃の連携に支えられています。学習の仕方、掃除の取り組み方、あいさつの意義等、小中学校間でベクトルを揃えた日常的な連携の積み重ねを小中合同の学校運営協議会が支えています。

#### 学校に地域の人がつどい絆を深める場がある

「花の日参観日」は、地域の方々が花を持って学校を訪れ花瓶に花を挿し校内に飾るといった企画です。地域の人にとって敷居が高いと思っていた学校が、居心地の良いつどいの空間であると感じて欲しいとの願いも込められています。

コミュニティルームの活用も進み、家庭教育支援チームの方を通して、子育て相談の場となる取組も考えられています。

その他、大人の学びの場の開設を進める学校、高齢者の体操教室を市長部局との連携で実施する学校、地域の方々と共に教室を本格的な美術館の体裁に模様替えし、展示作品を通して地域の方々が交流し、子どもたちとふれあう場として活用する学校など、地域の方の抛り所となる学校が生まれています。



以上のような地域連携を、地域の側に立つて推進するのが地域コーディネーターであり、中学校区でのまとめ役を統括コーディネーターと呼んでおり、今後ますますこの立場の者を中心としたネットワークづくりへの期待が高まります。

地域とともにある学校づくりが、子どもたちを成長させ、ふるさとを愛する心を育み、地域の人の絆を深めいっそう地域が活性化する「学校を核とした地域づくり」へと発展していく基盤づくりに努めたいと考えています。

### 学校と地域をつなぐ学校運営協議会とは



和田小・中学校学校運営協議会  
会長 平野 忠彦

周南市和田地区は、現在人口千三百人ほどの農山村過疎地域であり、児童生徒の数も小・中学校合わせて四十人程度の小規模です。平成二十六年、和田小・中学校それぞれに学校運営協議会制度が導入されましたが、当初は地域団体の長が名を連ねた形式的な会でした。それが一変したのが平成二十七年五月の協議会からです。国では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」なるものが出され、地域づくりが叫ばれるようになり、地域づくりに関する地域活性化に思いを寄せるメンバーが、将来の故郷を背負うことへの思い【理念】からコミスクの実質的な活動をしようとして決起したのがこの会です。

まず始めたのが、地域への情報提供と既存の活動のパワーアップです。和田地区全戸に毎月コミスク通信を配布し、活動に対する理解と協力を求めました。また、これまでの学校から要請を受けての下請け的な活動から、協議会組織の主体的な活動【参画】に転換していきました。学力向上・健康安全・心の教育の三部会の活動をより具体化し、部長を中心にそれぞれ定期的教育支援活動を行うこと、毎月の企画推進部会で学校との協議

のもと、活動内容を点検することなどをくり返し実施しました【熟議】。その結果、地域から多くのサポーターが集まり、メンバー・サポーター・教職員そして児童生徒の関係が深まってきました【連携】。今年度からは、三部会がそれぞれプロジェクトをつくり、子どもの現状に即した支援活動を検討し実践することになっています。

和田のこどもの将来を見ずえて、地域活動の核である学校を地域で支え、学校の教育活動に準じたビジョンを学校運営協議会も検討しなければならぬ時だと考えています。



### どんどんひろがる 熊毛のコミスク



周南市立熊毛中学校  
地域統括コーディネーター 末廣 祥子

熊毛中学校は、周南市の東端にあり、校区内には五つの小学校を抱えています。周南市に合併した後も「熊毛はひとつ」として、学校間で共通の生活目標を掲げてきた地域で、帰宅途中の中学生が、すれ違う人と「ただいま帰りました」「おかえりなさい」と挨拶し合う光景が普通に見られます。二十七年からは年に一回「拡大学校運営協議会」が開催されており、子どもたちの育成について熊毛地区全体で協議しています。

私が主に関わるのは、毎月熊毛中で開催されている「図書カフェ」や手芸サークルの企画・運営、ALTによる英会話教室の告知、「土曜寺子屋」の学習サポーター集め、先生方からの要請による熊毛音頭指導者・職業講話講師・地域面接官などの動員です。

このような大きな動員ができるのも、月一回行っている熊毛地区小中「コーディネーターの集い」のお陰です。地域コーディネーター同士の情報交換と孤独感解消のため、昨年一月に始まった集いですが、皆さんにどれだけ助けられ、笑顔を頂いているかわかりません。去る五月一日、熊毛中の空き教室を利用して「くまげの美術室」が開館しました。建築士・大学教授・芸術家・放送作家などの素晴らしい実

行委員を地域の力が呼び寄せ、PTA会長が委員長を引き受けて下さるのを目の当たりにし、非常に感動しました。「絵の好きな方々を繋げる場にしりたい」との校長の想いを実現するべく、今日も「笑顔」と「ありがとう」で頑張ります。



# 四科連携及び岩国市行政と一体となった ものづくりによる地域貢献



山口県立岩国工業高等学校

都市工学科 教諭 穂 森 克 彦

山口県立岩国工業学校として昭和十四年に設立された岩国工業高等学校は、来年度創立八十周年を迎えます。設置学科は様々な変遷を経て、現在は機械科・電気科・都市工学科・システム化学科の四学科を設置しています。本校校訓である「責任」「協調」「創造」を基本とした教育目標を掲げ、「ものづくり」「資格取得」「部活動」を三本柱に据え、「将来のスペシャリスト」「地域産業を担う人材」「人間性豊かな職業人」など未来の作り手となる心身ともに健全な産業人の育成に努めています。

## 四科連携ものづくりによる地域貢献

本校では昨年度から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、四科が連携し岩国市行政と一体となったものづくりによる地域貢献に取り組みうと、三年生の課題研究において四学科連携によるものづくりがスタートしました。

各科の専門技術を活かしたグループ編成で、本校オリジナルの作品制作を行い、特色あるものができないかという試みです。さらに開発から生産・流通・販売まで行い、企業、行政、学校（産・官・学）一体となった取り組みができないか検討しました。

## 岩国市行政と一体になった取組

岩国市の活性化を目的に、昨年五月、岩国市役所会



議室で、本校の各科の生徒十三名、岩国市産業振興部観光振興課長、同部商工振興課班長、岩国市市民生活部市民協働推進課長の参加者による協議会を開催しました。また、観光地での視察も行われ、高校生から活発な意見が提案されました。

その内容は

- (一) 観光名所に3Dプリンターを使って観光マップを備え付ける。
- (二) 伝統文化を継承するため、「玖珂縮」織物機を製作し、技術の伝承及び実演、販売を行う。
- (三) 岩国れんこんをチップスにするための製造装置の製作。わさび味やしょうゆ味にして商品化し、錦帯橋そばにある岩国市観光交流所にて試食を行う。
- (四) 錦帯橋や城山など観光地へスマホ自撮り装置を製作し設置する。



## 成果と課題

- (一) 観光案内図については、地形の精度にこだわらず、目印になるようバランスよく配置する工夫が必要で、3Dプリンターで出力した模型数を増やすことなどが本年度の課題です。

- (二) 玖珂縮については、機織りを「本家松がね」に示し、実演を実施中です。
- (三) れんこんチップスについては、試作を繰り返しながら塩味が良いことが分かりました。
- (四) スマホスタンドについては、金属製の製作に取り組んでいますが、アルミの溶接に難航しています。ねじ止めなどほかの接続方法も考察する必要があります。

## ものづくりによる地域貢献活動をおして

- これまで各科内で実施されてきた課題研究授業を、学科を超えた内容にし、さらには地域社会という学校を超えた枠で授業を行うことにより、
- (一) 問題解決能力や自発的創造的な学習態度の育成
- (二) 多様な人と協働し、新しいものづくりや仕組みづくりの態度の育成
- (三) 本校の特色づくりなどが期待されます。

本年度は、昨年度の取組の改善と新たな取り組みを検討中です。今後も、ものづくりによる地域貢献活動をとおして、地域の発展に貢献する人間性豊かなスペシャリストの育成に努めたいと思います。

### 「4科連携及び岩国市行政と一体となったものづくりによる地域貢献」の実際

山口県立岩国工業高等学校

#### 製作にかかわった卒業生（当時3年生）の声〔その1〕



スマホスタンド（木工）

「スマホスタンドの製作を通して」  
 名橋錦帯橋は、岩国市に住んでいる私たちには身近な存在ですが、全国にPRするためにはもつと錦帯橋について多くのことを学ぶ必要があります。市の方と連携を取りながら取り組むことは誰もができることではなく、また、初めて知る知識や技術、他科の人たちと連携し意見を述べ合う機会を得たことは本当によい経験になりました。  
 今回、溶接の知識や技術に実際に触れ、自分たちで考えながら自主的に行動することで、コミュニケーション力や協調性が身につきました。社会に出る前に様々な人達と協働して取り組めたことは、今後の大きな武器になると思います。一年間の研究活動はプラスになることしかなく、自分の行動や性格までもが大きく変わったのではないかと思います。この経験を活かし、社会人になってからも地域貢献に取り組む所存です。



3Dプリンターで作製した建造物模型



作製中の観光案内地図（錦帯橋周辺）

#### 製作にかかわった卒業生（当時3年生）の声〔その2〕



玖珂縮機織り機（完成後の演習）

「玖珂縮」（伝統文化の継承）  
 「玖珂縮」とは、岩国市玖珂町の地に古くから伝わる縮み織り技法を施し、独特の風合いのある伝統織物です。現在では玖珂縮の認知度が低くなっていることから、私たちは、そのすばらしい技法と伝統文化を継承することを目的に活動することにしました。  
 まず私たちは、玖珂町の前に建っている「逸品館」で活動している「玖珂縮の会」を訪ね、一七四九年に玖珂町の富山秀意により玖珂縮が考案されたことや材料である糸が桜の樹の皮やたまねぎの皮で染められていることなどを聞きました。それから、柳井商工高校から機織り機的设计図をいただき、必要な木材を発注し組み立てに取りかかりました。ねじや釘などを使わずに「ほぞ」という組み立て方だったため、とても時間がかかり苦労しましたが、何とか完成し、機を織ることができました。



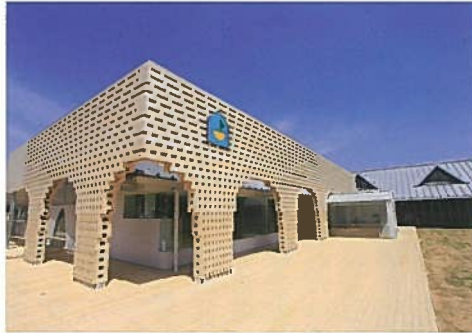
れんこんチップス

# 森と海と人をつなぐ 長門おもちゃ美術館



NPO法人「人と木」  
理事長 岩本 美枝

二〇一八年四月七日、長門市仙崎の道の駅「センザキッチン」内に「長門おもちゃ美術館」がオープンしました。総面積約四百平方メートル、長門の木で建てられた公設民営の、美しく、わくわくいっぱい、開館したての施設です。



## NPO法人「人と木」とは

長門市の木育を推進するために、二〇一六年五月に設立しました。

長門市・東京おもちゃ美術館と三者でウッドスタート宣言をし、誕生祝品プレゼント、木育キャラバン、木育円卓会議などの事業を展開しています。その中で、センザキッチン内に木育拠点施設を設置したいという市の方針を受け、民間でなければできない取組を推進するために、本NPO法人が運営することになりました。

## コンセプト

単なる遊びだけの施設ではなく木育拠点施設として、

本館では、次の五点を大事に育て守っています。

- (一) 必ず保護者と一緒に入場し、保護者と共に遊ぶ。
- (二) 基本、子どもの自由な表現を尊重する。
- (三) おもちゃ学芸員は、人とおもちゃをつなぐおもちゃの伝道師であり、自らも自己実現や楽しさを味わう。
- (四) 木が育つ山と魚が育つ川・海はつながっていることを感じ、おもちゃで遊びながら木を好きになつてもらおう。
- (五) 赤ちゃんから大人まで館内にいる誰もが、ふれあいを楽しむ。

## 長門ストーリー

開館に当たり、東京おもちゃ美術館の監修を受け、姉妹館提携をしました。今後、日本各地でおもちゃ美術館が増えていきますが、長門ならではの特性を活かすために、多くのしかけがあります。そのいくつかを紹介いたします。

- (一) 使用している木材はすべて、長門産。館内には広葉樹八種類・針葉樹三種類で作られた約三百本のルーバーが立っています。場所ごとに木の特性が活かされ、特産の椎の木フローリングもあります。
- (二) 外観・遊びのエリアは、長門の地形をイメージしています。テーマカラー浅葱色は長門の海の色です。
- (三) ボランティアスタッフとしておもちゃ学芸員養成講座を修了した「おもちゃ学芸員」が百人余りおり、

運営はこの方たちに支えられています。県内各地から遠くは広島・福岡県の方も。第四期養成講座は七月十一・十二日です。

(四) 日本初、木質化されたキッズクルーズ船の運航は目玉の一つです。クラウドファンディングの支援金で、古い観光船を改修しました。乗船体験を通じて、森と海と人をつなぐ大きな魅力になっています。浮桟橋と共にインスタ映えもします。

## 地域との連携と木育の推進



この施設は公設なので、市民の宝として育て、またテーマの「木育」を推進し、地域の活性化に繋がるような事業やイベントを開催していきます。昨年度は、教育委員会の協力で市内全小中学校で木の卵磨きをしました。「人と木」のメンバーが出向き、子どもたちと触れ合いながら三千個の卵を製作しました。今年度は、幼保と支援センターの乳幼児が対象です。

また、ワーク・ショップを館内のみならず、地域や長門以外にも出張して行います。子どもたちが、少し本格的な道具を使ってする木工体験や実際に山に入るイベントも計画中です。地域の方の協力は不可欠で、子どもの姿を見ることで元気になっていただき、笑顔が増えることが「人と木」の目標の一つでもあります。形は違っても一人一人ができる貢献をする事で、さらに新しい挑戦も可能になります。楽しみながら、続けることがとても重要な要素です。

多くの方に、長門おもちゃ美術館に来ていただき、触って、感じて、体験して、笑顔で日常に戻り明日からの活力になればと願いを込めて運営しています。スタッフ・おもちゃ学芸員ともにお待ちしています。

# ふるさとに心をつなぐ



山頭火ふるさと館

館長 西田 稔

### ふるさとを想う

「雨ふるふるさとははだしであるく」

「ふるさとの水をのみ水をあび」

「ふるさとの学校のからたちの花」

「海よ海よふるさとの海の青さよ」

「うまれた家はあとかたもないほうたる」……ふるさとに帰りたくても帰ることができなかった山頭火が詠んだふるさとを想う句の一部です。

人には皆ふるさとがあり、時にはそのふるさとが生きる上で心の支えになることもあります。そのふるさとに心をつなぎ、ふるさとを大事に想う子どもたちを育てていくことは私たちの大切な役目です。

昨年の秋にふるさとが生んだ偉大な俳人「種田山頭火」の顕彰記念館がオープンいたしました。これを機に、ぜひ山頭火や自由律俳句に親しんでいただき、ふるさとに心をつないでほしいと思います。

山頭火の人生  
「昭和の芭蕉」と呼ばれた種田山頭火は、明治十五年、三田尻駅（現在の防府駅）周辺の大地主であった種田家の長男として生まれました。裕福で大金持ちだった種田家でしたが、徐々に家が傾き始め、新たに始めた酒造業の事業にも失敗し、結局種田家を潰してしま



ます。ふるさと防府に居られなくなった山頭火は、逃げるようにして九州熊本へ妻子とともに去っていき、その後も妻サキノとの離縁、大切な家族の死など多くの辛い出来事が彼を襲います。山頭火は四十五歳の時に出家得度し、四国松山で亡くなるまでの十四年間はあのお馴染みの墨染めの衣に袈裟をかけた姿で、一笠一鉢一杖（いちりゅういつぱついちじょう）の行乞・放浪と句作に費やしました。ふるさとに帰ることなく漂泊の旅に生きた山頭火が作った句はその数万句とも言われており、数多い名句の中には冒頭に掲げたようなふるさとを想う句も多数残っています。

### お帰りなさい山頭火

その山頭火が防府を離れてから百年の長い年月を経て、やっとふるさと防府に帰ってきました。顕彰記念館が生誕地に「山頭火ふるさと館」として完成し、昨年（平成二十九年）十月にオープンしたのです。

全国で唯一の山頭火顕彰記念館

が完成し、防府市民や全国の山頭火ファンの皆さんに喜んでいただきましたが、中でも一番喜んだのは、天空の星となった山頭火本人だったかもしれません。

実際、山頭火ふるさと館オープン当日には、山頭火の涙雨が降りました。この日の天気予報では終日快晴だったにもかかわらず、オープンセレモニー前になって急



に大粒の雨が降り出し、会場を濡らしました。その間わずか数分。その後すぐに真つ青な空が広がり、見事な秋晴れの下、オープンセレモニーは無事終了しました。会場を濡らしたあの雨は、百年ぶりにふるさとに帰ってきた山頭火の流した喜びの涙であったと思っています。

### 山頭火の魅力

「歩かない日はさみしい、飲まない日はさみしい、作らない日はさみしい」と彼は残しています。酒をこよなく愛し、一人行乞の旅をしながら句を作り続けた山頭火は、各地に句や書を数多く残しました。オープンして半年たちますが、山頭火に魅せられた皆さんが全国から来館されており、来館者の六割は市外、県外からのお客様です。また、山頭火の句碑が全国各地に建っており、その数は現在八百基を超えています。山頭火が「昭和の芭蕉」、「自由律句の代表」と言われる所以でしょう。

漂泊の俳人として、孤独を耐え抜き、厳しい人生を歩んだ山頭火の精神力の強さ、そしてそのような人生を歩んだからこそ生まれた人の心を打つ句の数々、それらには、私たちが生きる上で共感できる部分や、力を与えてくれるものが隠れていて、その生きる力にも似た何かがある心をつかんで離さないのだと思います。

### ふるさとに心をつなぐ子らを

種田山頭火は、山口県が生んだ昭和の偉大な俳人です。山口県の子どもたちが山頭火を知らないようではいけません。

本館では年六回の企画展を開催して、山頭火の魅力は今後もさらに全国へ、そしてまた後世にもしっかりと伝えていき、ふるさとに心をつなぐ子、ふるさとを大事にする子を育てていきたいと思っています。

最後に彼の辞世の句を紹介して終わります。もうもりもりあがる雲へあゆむ」

多くの皆様のご来館をお待ちしています。



# 教職時代を偲ぶ



大津支部

梅月 博文

二年の臨時採用期間を経て採用された玖珂郡錦町立高根中学校が、私に「青山」、否、「生きる場所」はどこにでもあると教えてくれたのだった。

昭和四十八年四月一日。萩、徳佐、津和野、六日市を通って高根に辿り着いたのは、長門を出発してから四時間半後だった。前日の豪雨により国道百八十七号が至るところで寸断されていたからであったが、採用された喜び一杯で向かう私にはその道のりも苦にはならなかった。はたして、着任後言い渡されたことは、二年後には統合のため廃校となること、私には出産予定の妻があつたが、一番若いからという理由で、島根県六日市町立長瀬小学校を卒業して寄宿舎生活を送る六人の舎監を兼ねること、部員十人のソフトボール部の監督をすることなど、思いもかけないことばかりだった。荷物を解く気力もなく裸電球一つの六畳間に横になると、羅漢山に向かうつづら折りを、唸るような音を立てながら登るバスのテールランプが見え隠れしていた。私の不安な気持ちをそのまま表しているかのような寂しい音と色だったことを今でもはつきり覚えている。

しかし、高根の子どもたちは素直で逞しかった。私が軽い気持ちで「学校は無くなっても県大会三位以上なら学校名は残るけどやるか」と問うて、部員が本気で「やります」と応えてからは、練習漬けの毎日が始まった。とは言え、グラウンドは学校から遠く離れた場所にある上、豪雨による土石が積み重なって練習などできる状態ではなく、それらを取り除くことと、そこへの行き帰りに全力疾走することだけが練習とも言え

る日々が半年以上続いた。高根中学校の名前を残すという子どもたちとの約束を果たさんために、厳寒の時には六十センチを超える積雪がある中でも容赦のない厳しい練習を課したが、迎えた春の予選は一回戦敗退に終わった。それ故更に鬼と化した私の指導の様子を見かねてか、「秋も勝てないかもしれない。せめて思い出づくりに行かせてみてはどうか」という学校と保護者の温情ある提案をいただいた。ところが、出場できた県選手権大会で三位になったばかりか、迎えた秋の県体予選では、県選手権大会二位の深須中学校、春の県体優勝校の本郷中学校に勝って、高根中学校としては最後となる県大会に出場し二位となったのである。高根中の名前が戦うことはもうないからお断りしたが、後々まで使えるグラウンドにしろもらったお礼にと地域の方がユニフォームを準備してください。これを身に付けて戦う子どもたちへの声援は、どの学校よりも大きくなお温かかった。ベンチの後ろには、子どもたちの三倍にも四倍にも膨らんだ保護者と地域の方々の姿があつた。

それにしても、子どもたちとの約束を果たせたのは、保護者の「先生、ありがとう。あれほど練習したんじやから、もう勝たんでもええよ」の一言がきっかけだった。山からの水をパイプで引いた生活用水の確保すらままならない中、寄宿舎生に迷惑をかけないようにと、生徒間もない長男を加えた私たち家族が音を潜めて暮らしていたことを知っておられた保護者からの、有り難い労いの言葉が、夢のような願いを叶えてくださったのだと思っている。高根中学校が初任地であつたからこそ、「人間至る処青山有り」と「ありがとうは巡る」の二言の意味を実感し、以後三十四年間糧とし続けたのである。



## 終身会員の紹介

津守 一郎	様(防府)	和田 敏明	様(防府)
高原 透	様(山口)	吉富 肇	様(山口)
原田 隆	様(吉敷)	浅川 宏之	様(隠岐)

## 第一回通常理事会 五月二十五日(金) 山口県教育会館

- 第一号議案 平成29年度一般財団法人山口県教育会事業報告及び決算について
  - 第二号議案 平成29年度一般財団法人山口県教育会公益目的支出計画実施報告書について
  - 第三号議案 平成30年度一般財団法人山口県教育会定時評議員会の開催について
- 全ての議案が承認されました。

## 六月四日(月) 山口県教育会館

### 参与会 報告及び協議

- 平成30年度活動方針・事業計画等
- 第17回やまぐち教育の日
- 第46回教育県民大会山口大会
- 第9回教育維新・青年教師の集い
- 現職研修奨励事業
- 第70回日本連合教育研究大会桐生大会
- 地域活性化活動奨励事業
- 第10回「わたしの志」作文募集
- 第31回「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- その他

### 奨励事業を活用した教育活動

○平成29年度支部別会員数概況報告  
協議では、宇部市立琴芝小学校 藤川校長先生、上関町立上関中学校 田邊校長先生、周南市立久米小学校 石田校長先生、防府市立桑山中学校 江山校長先生から、奨励事業を活用した教育活動を紹介していただきました。

